

【A分科会】

学校図書館の運営・連携

《A-小 発表1》

「読書に親しむ子どもを育む学校図書館を目指して」

広島県 広島市立落合小学校

1 はじめに

本校は、学級数14の中規模校であり、広島市の北に位置している。近隣学区の公民館に小さな図書館はあるものの、公立の大きな図書館とは離れた場所にあるため、児童にとって最も身近な図書館と言えば学校図書館である。

しかし、その学校図書館は古い本が多く、整理されていないことから、身近にあるはずの学校図書館が、本があるだけの場所になってしまっており、利用しづらい状況にあった。また、児童が手にとる本には偏りがあり、様々なジャンルの本に触れる機会は十分ではなかった。さらに、本校の隣には幼稚園があり、連携を図った取組を行いやすい立地であるにもかかわらず、それを教育活動の中で生かしてきていないということも課題であった。

そこで、学校図書館を整備し、多方面との連携を図りながら学校図書館を教育活動全般で利活用する取組を進めることで、「読書に親しむ子ども」を育てることを目指してきた。

2 研究の概要

(1) 読書活動の推進

- ① 朝の読書タイム ② おすすめの本25冊 ③ 読書朝会
- ④ どこでも読み聞かせ（ここだけ読み聞かせ） ⑤ 図書館利用テキスト

(2) 環境整備

- ① 学校図書館の整備 ② 校舎内の整備（学年文庫、学習コーナー等）

(3) 連携・協力

- ① 幼稚園 ② 保護者・地域 ③ 委員会活動
- ④ 学校司書 ⑤ 公立図書館

3 成果と課題

成果としては、学校図書館を整備し、読書活動を推進する取組を進めてきたことで、児童の読書量が増えたことが一番に挙げられる。貸出冊数の多かった9分類の本だけではなく、他の分類の本も貸出冊数が伸びた。また、校内の好きな場所として学校図書館を挙げる児童が見られるようになったことから、学校図書館の機能の一つである「子どもたちの『居場所』」として本校の学校図書館が役割を果たしていると考えられる。さらに、学校図書館を通じた幼稚園との連携は、幼小の接続という点からも有効であった。

課題としては、本校の学校図書館において「学習・情報センター」としての機能が十分果たせていないことである。今後、計画的な蔵書の購入や図書資料の充実を図っていきたい。

また、生涯にわたって読書に親しむ子どもを育てるには、学校と家庭や地域との連携が欠かせない。今後は、さらに家庭や地域との連携を推進するためには何ができるかを考えていきたい。